

神明遺跡 第36地点

遺跡名	神明遺跡
よみがな	しんめいいせき
調査地点	第36地点
主な時代	中近世（約1200年前～）
調査地	富士見市大字水子4435-1、4436-1
調査面積	1495.29 m ²
調査期間	令和3年4月27日～4月28日
調査内容	<p>【確認された主な遺構】 中近世溝跡1条、粘土貼土坑1基</p> <p>【出土した主な遺物】 陶磁器類</p> <p>【概要】</p> <p>神明遺跡は柳瀬川を東に見下ろす武蔵野台地縁辺部に立地し、水子字城ノ下から針ヶ谷にかけて集中する遺跡群の一つです。北東に観音前遺跡、南西に東台遺跡と隣接します。</p> <p>これまでの調査では、ほとんど遺構が確認されない遺跡でありましたが、今回の調査により、中世以降の溝跡と粘土貼土坑が確認できました。</p> <p>溝跡は上幅が広く、深く掘り込まれており、地境等の区割の溝跡と考えられます。また、粘土貼土坑は平面形が円形で、底面に白色粘土を貼り付けた土坑です。用途については様々な説があり詳細は不明ですが、粘土を底に固定していることから、重たい液体の入った甕や桶等を固定するためのかも知れません。</p>



遺構検出の様子



溝跡完掘状況



溝跡の覆土堆積状況



粘土貼土坑完掘状況